

野菜の生育・出荷の現場と今後の見通しについて

(全国農業協同組合連合会)

野菜の生育・出荷の現状と今後の見通しについて

1. 現状

今夏の猛暑・干ばつの影響から夏秋野菜は終了期が早まる一方、秋冬野菜は播種・定植の遅れにより出遅れたため、10月上旬まで野菜全般の出回り量は概ね少なめで推移した。

(1) 夏秋産地（北海道、東北、高冷地など）

今夏の全国的な異常気象（猛暑・干ばつ）は夏秋産地の野菜に対し、正品率の低下や小玉化、病虫害の発生など様々なダメージを与えた。このため夏秋野菜は出荷量が減少し、終了時期も早まる状況となっている。

(2) 秋冬産地

また、この異常気象は秋冬野菜の出荷にも影響を与えている。具体的には、適度な水分を必要とする播種や定植作業の遅れ、初期成育不良などであり、このことが出荷開始の時期を遅らせている原因となっている。

2. 今後（10月下旬～11月）

(1) 10月下旬から11月上旬

レタス・きゅうりについては、徐々に回復傾向にあり、10月下旬以降、前年並みの出荷となることが見込まれる。

だいこん・はくさい・キャベツ・トマト等については、引き続き出回り量は少ない見込み。前年の8割から9割の出荷が予想される。

(2) 11月中旬以降

猛暑・干ばつの影響から、遅れていた秋冬野菜の播種・定植が9月上旬以降一気にすすんだことや、その後の生育も比較的順調に推移していることから、たまねぎ・ねぎ等を除き、野菜全般的に前年を上回る出荷が見込まれ、やや供給過剰傾向となることが懸念される。

3. 主要品目の品目別出荷状況と見通し：別冊

以上

主産県における野菜の出荷状況と見通し

品目 だいこん

○本年見通し数量の前年対比(主産県)

出荷団体	10月上旬	10月中旬	10月下旬	11月上旬	11月中旬	11月下旬
ホクレン	84%	95%	91%	84%	98%	98%
全農青森県本部	82%	82%	82%	82%	82%	82%
全農千葉県本部	35%	68%	75%	96%	107%	106%
3県の合計	82%	88%	83%	91%	105%	104%

○生育・出荷について

現状の生育・出荷状況

・ホクレン: 8月の降雨の影響で、計画的な播種ができなかった地区では、出荷が減少している。

・青森 : 品質低下から出荷量は減少傾向。

・千葉 : 干ばつの影響から、全般的に出荷の遅れが見られる。

10月下旬の出荷見通し

・ホクレン: 主要産地では10月中旬で概ね選果が終了し、出荷量は減少、平年を下回る見込み。

・青森 : 出荷量は増加の見込みはなく、減少傾向。

・千葉 : 印旛地区から本格出荷期となる。やや遅れている海匝(かいそう)地区からの出荷も始まり、県内トータルの出荷量は徐々に増加してくるが、前年よりは少ない見込み。

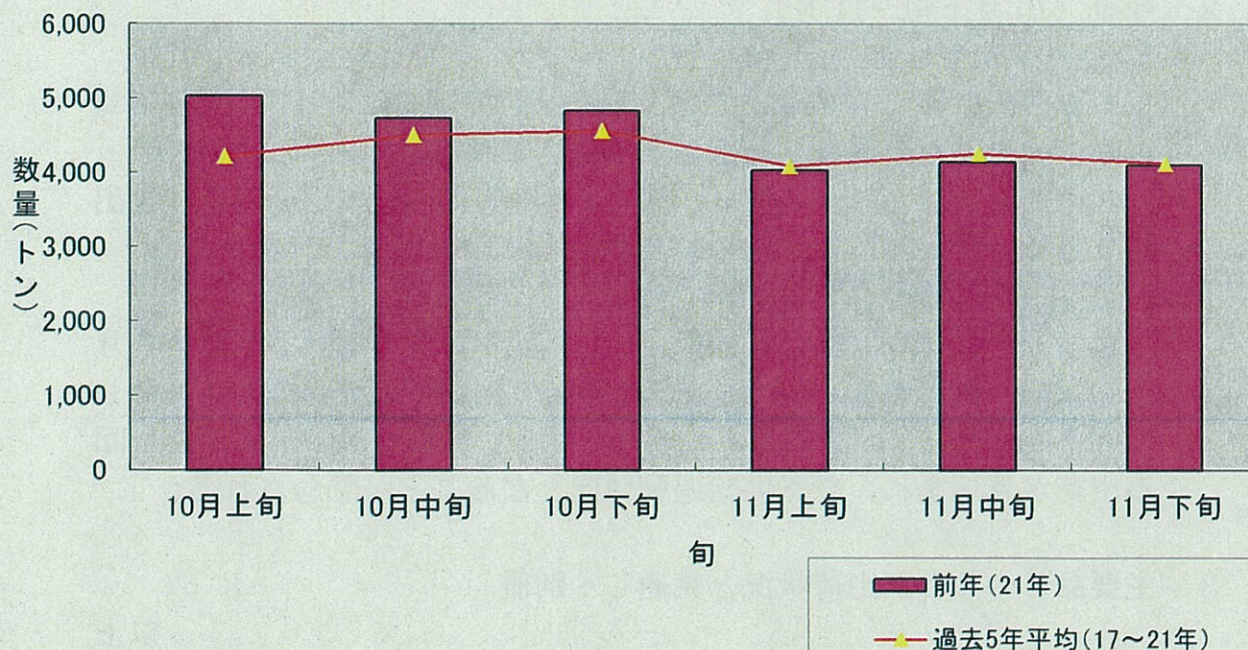
11月の出荷見通し

・ホクレン: 道外向けは10月末でほぼ終了。出荷量は平年を下回る見込み。

・青森 : 増加の見込みはないまま、終期は早まる見込み。

・千葉 : 主力の海匝(かいそう)地区は、11月中旬頃より本格的な出荷が始まる見込み。
印旛地区は、例年11月には減少に向かうが、今年は下旬まで例年より多めの数量を見込む。

東京都中央卸売市場の入荷量(系統、商系を含む全入荷量)



主産県における野菜の出荷状況と見通し

品目	はくさい
----	------

○本年見通し数量の前年対比(主産県)

出荷団体	10月上旬	10月中旬	10月下旬	11月上旬	11月中旬	11月下旬
ホクレン	70%	75%	77%	88%	72%	76%
全農茨城県本部	0%	57%	75%	82%	121%	126%
全農長野本部	98%	105%	87%	91%	92%	83%
3県の合計	94%	100%	84%	87%	111%	124%

○生育・出荷について

現状の生育・出荷状況

- ・ホクレン: 高温や夏場の多雨により収量が低下したため、出荷量は平年に比べ減少している。現在が出荷ピーク(今週いっぱい)と思われる。
- ・茨城: 定植の時期に高温・干ばつであったため、生育の遅れが見られる。10月中旬以降の出荷開始を見込む(前年は、9月末から出荷開始)。
- ・長野: 現状の出荷ペースは平年並み。10月初旬は降雨および気温上昇により、生育日数短縮し連休前に出荷増となった。現状、病害発生等はなく順調な生育・出荷状況である。

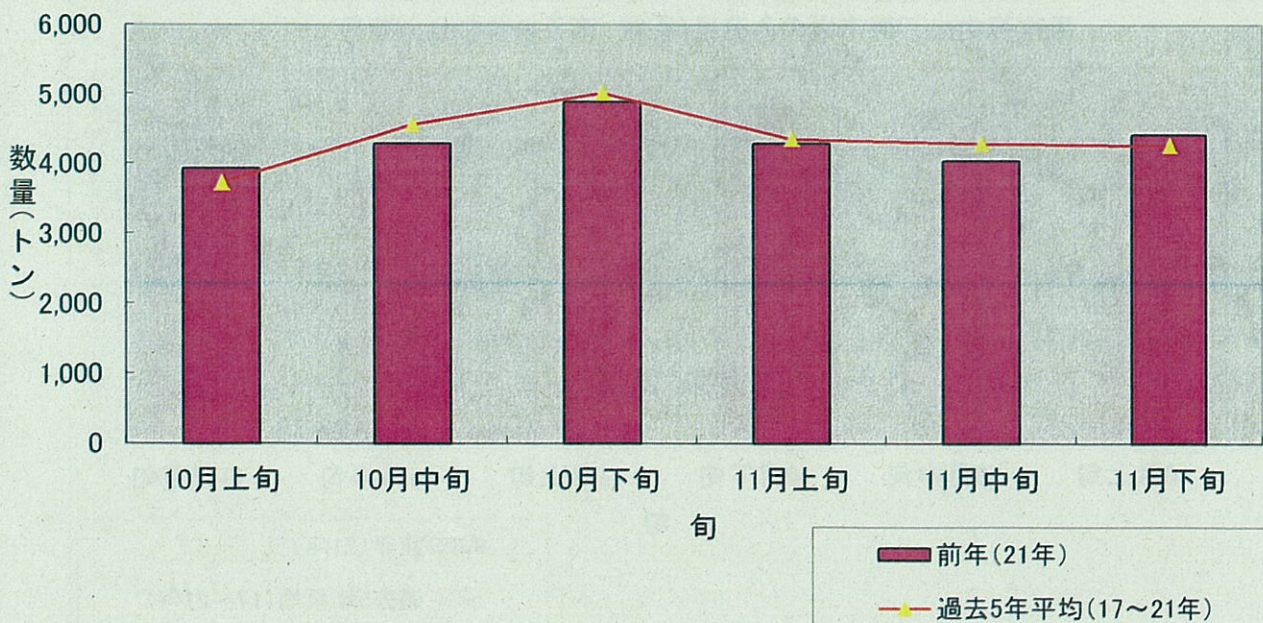
10月下旬の出荷見通し

- ・ホクレン: 出荷終盤のため出荷は減少し、出荷量は平年を大きく下回る見込みである。道外向けは10月末でほぼ終了。
- ・茨城: 全産地からの出荷開始となり、数量は前年の7～8割を見込む。
- ・長野: 前年に比べ、高冷地において生育の前進および収穫終了圏の状況から前年を下回る見込みだが、例年どおり10月末までは契約的取引もあり一定量の出荷量を見込む。

11月の出荷見通し

- ・ホクレン: 出荷量は平年を下回る見込み。
- ・茨城: 上旬は数量少ない状態が続くものの、中旬より各産地で数量出揃い、下旬には、遅れていた作型の出荷が重なって数量は前年より多くなる見込み。11月全体では、前年比1～2割増量を見込む。
- ・長野: 11月上旬でほぼ終了を見込む。

東京都中央卸売市場の入荷量(系統、商系を含む全入荷量)



主産県における野菜の出荷状況と見通し

品目

キャベツ

○本年見通し数量の前年対比(主産県)

出荷団体	10月上旬	10月中旬	10月下旬	11月上旬	11月中旬	11月下旬
全農群馬県本部	102%	102%	96%	96%	97%	94%
全農千葉県本部	4%	55%	78%	91%	106%	106%
愛知県経済連	61%	68%	95%	89%	115%	98%
3県の合計	99%	98%	91%	91%	110%	102%

○生育・出荷について

現状の生育・出荷状況

- ・群馬 : 小玉傾向から回復基調にあるが、生産者によりバラツキあり。夏秋産地では出荷終盤となっており、現在の出荷量は前年を上回る日量15~17万ケース。
- ・千葉 : 干ばつの影響から、10月から出荷開始となる東葛地区では、定植の遅れが散見される。主力の海匝(かいそう)地区は、生育の遅れが見られる。
- ・愛知 : 8月、高温・干ばつの影響で発芽不良や定植後の活着不良がみられ一週間程度遅れていた。9月中旬以降、気温の低下・適度な降雨で生育は回復してきている。

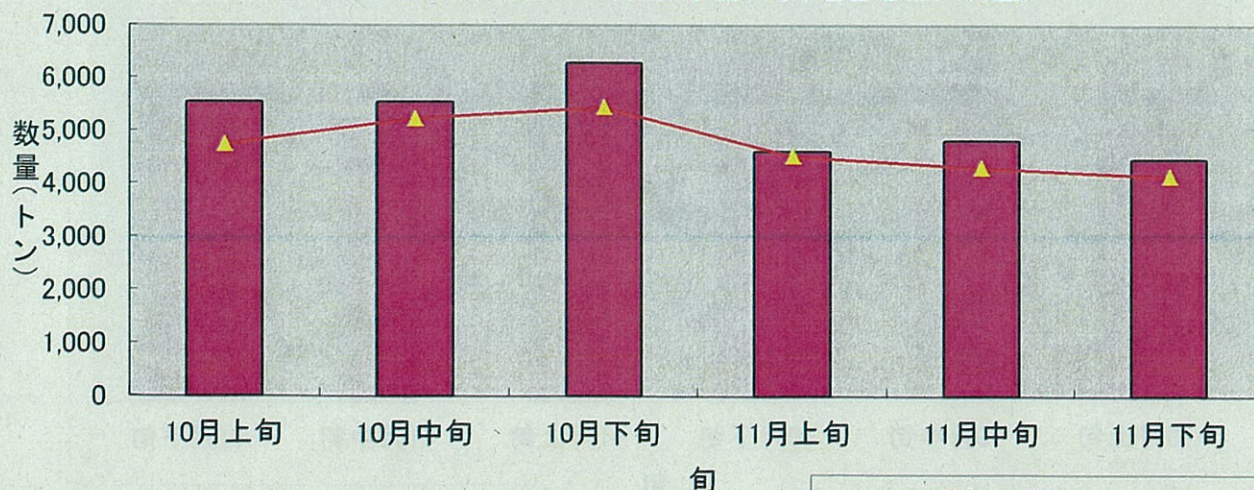
10月下旬の出荷見通し

- ・群馬 : 夏秋産地からの出荷は終了期、前年並の日量2万ケース程度を見込む。秋冬産地は生育遅れ、作柄は不良。
- ・千葉 : 主力の海匝地区から本格的な出荷が始まるが、やや遅れていることから、出荷量は平年を下回る見込み。
- ・愛知 : 生育遅れも回復傾向であるため、前年並みの800トン前後の出荷量を見込む。

11月の出荷見通し

- ・群馬 : 秋冬産地が出揃う。生育の遅れ、作柄不良より収量減が見込まれる。
- ・千葉 : 主力の海匝地区から本格的な出荷が始まる。出荷量は11月上旬より各地区が出揃い、本格的な出荷となる見込み。
- ・愛知 : 年内出荷の作付面積が増加しており、前年11月の実績(11,785トン)を超える出荷を見込む。

東京都中央卸売市場の入荷量(系統、商系を含む全入荷量)



主産県における野菜の出荷状況と見通し

品目 たまねぎ

○本年見通し数量の前年対比(主産県)

出荷団体	10月上旬	10月中旬	10月下旬	11月上旬	11月中旬	11月下旬
ホクレン	79%	80%	74%	91%	86%	94%

○生育・出荷について

現状の生育・出荷状況

現在は全道的に他の作型よりも比較的収量の良い早生品種を中心に選果している状況。しかし、例年になく小玉での作柄となっており、今後出荷される中生以降の品種も、更に小ぶりである見込み。また、全ての作型において平年以上のロス(圃場・選果場での腐敗等)が多く発生している状況。

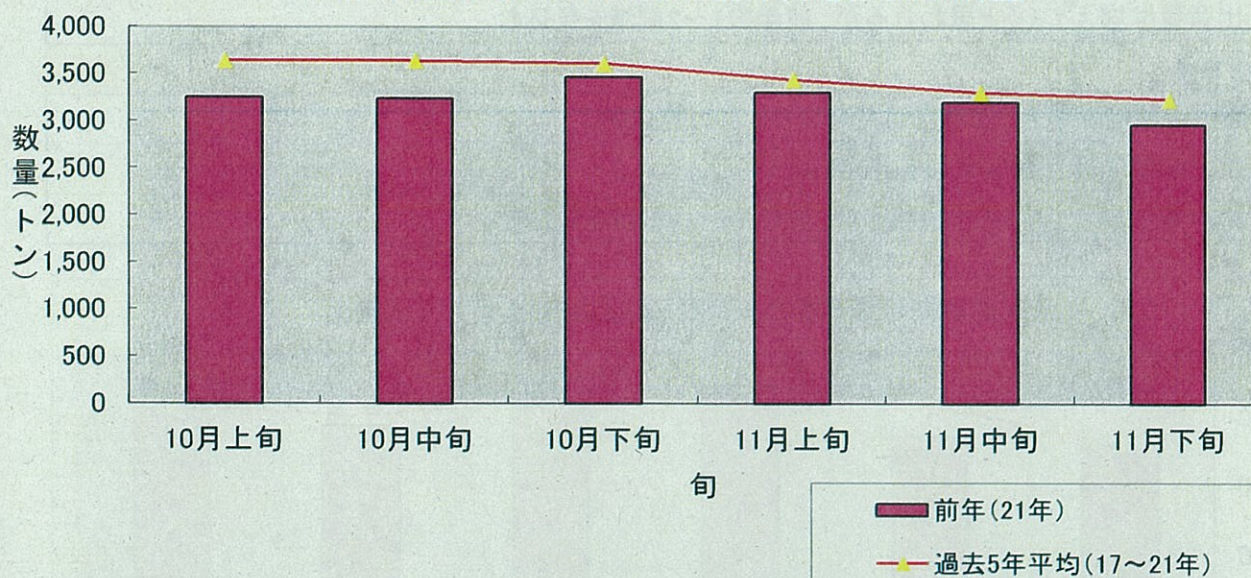
10月下旬の出荷見通し

出荷ペースは、現状と大きく変化はない見通し。

11月の出荷見通し

総体出回量が極めて少ないことから、多くても現状並のペースで推移する見通し。

東京都中央卸売市場の入荷量(系統、商系を含む全入荷量)



主産県における野菜の出荷状況と見通し

品目 : ねぎ

○本年見通し数量の前年対比(主産県)

出荷団体	10月上旬	10月中旬	10月下旬	11月上旬	11月中旬	11月下旬
ホクレン	97%	99%	96%	97%	98%	97%
全農青森県本部	97%	97%	97%	97%	97%	97%
全農新潟県本部	62%	85%	85%	89%	90%	89%
3県の合計	92%	96%	94%	95%	95%	94%

○生育・出荷について

現状の生育・出荷状況

- ・ホクレン: 夏場の高温の影響から、細もの中心での出荷となっている。
- ・青森 : 夏ねぎは終盤で少ないが、秋冬ものの出荷開始となり、青森全体の出荷数量は回復基調となる。
- ・新潟 : 猛暑による生育遅れ、稲刈り作業との関係により、収穫作業がずれこみ、出荷減となった。今後は徐々に出荷量が増えてくる見込み。

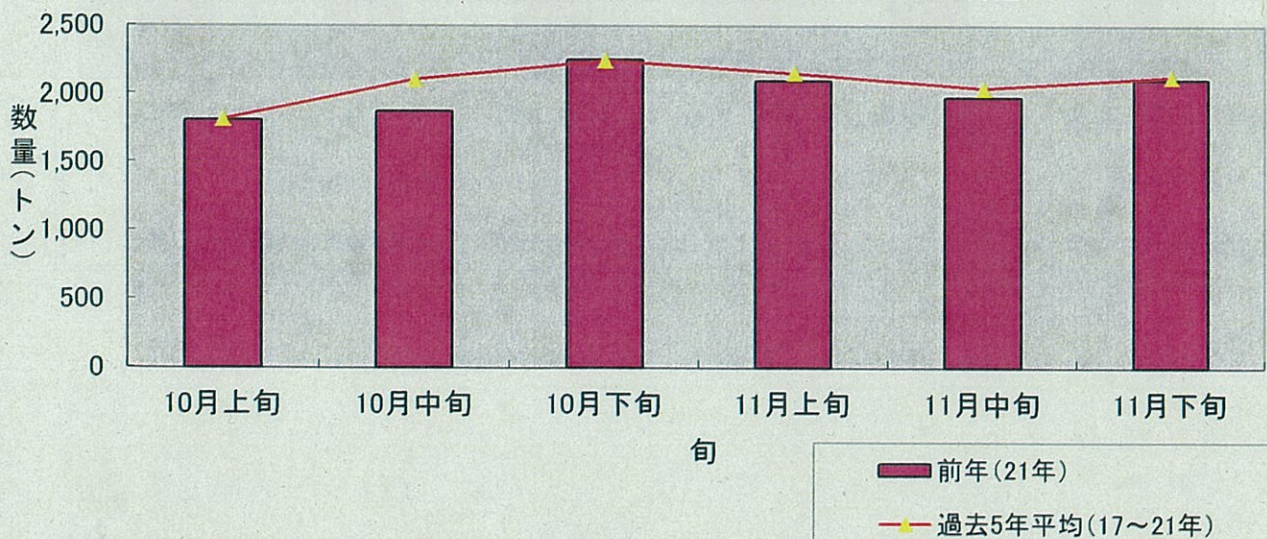
10月下旬の出荷見通し

- ・ホクレン: 細もの傾向のため10月下旬は平年より減少する見込み。
- ・青森 : 稲刈り作業等の終了にともない、出荷数量は回復基調となる。
- ・新潟 : 出荷量は増えてくると思われるが、前年の1～2割減を見込む。

11月の出荷見通し

- ・ホクレン: 細もの傾向が続き、出荷量は平年より少ない見込み。
- ・青森 : 出荷数量はほぼ前年並みを見込む。
- ・新潟 : 出荷量は増えてくると思われるが、前年の1～2割減を見込む。

東京都中央卸売市場の入荷量(系統、商系を含む全入荷量)



主産県における野菜の出荷状況と見通し

品目	レタス
----	-----

○本年見通し数量の前年対比(主産県)

出荷団体	10月上旬	10月中旬	10月下旬	11月上旬	11月中旬	11月下旬
全農茨城県本部	34%	93%	101%	115%	96%	99%
全農長野本部	65%	82%	57%	71%	0%	#DIV/0!
全農兵庫本部	20%	143%	152%	106%	110%	173%
3県の合計	59%	88%	97%	112%	100%	125%

※全農長野県本部：非結球含む

○生育・出荷について

現状の生育・出荷状況

- ・茨城：干ばつによる定植・生育遅れにより、9月の出荷量は前年の15%、平年比では3割程度。10月に入り各産地出揃ってきており、徐々に増加している。平年よりは遅れているものの、週末にはまとまった出荷量となる見込み。
- ・長野：高冷地は出荷終盤、準高冷地は上中旬は横ばいの出荷が続く見通し。各産地において出荷終了は早めを見込む。出荷は10月中旬までで概ね終了に近づく。
- ・兵庫：8月の猛暑、9月の高温により定植の遅れ、活着不良、生育不良が見られる。

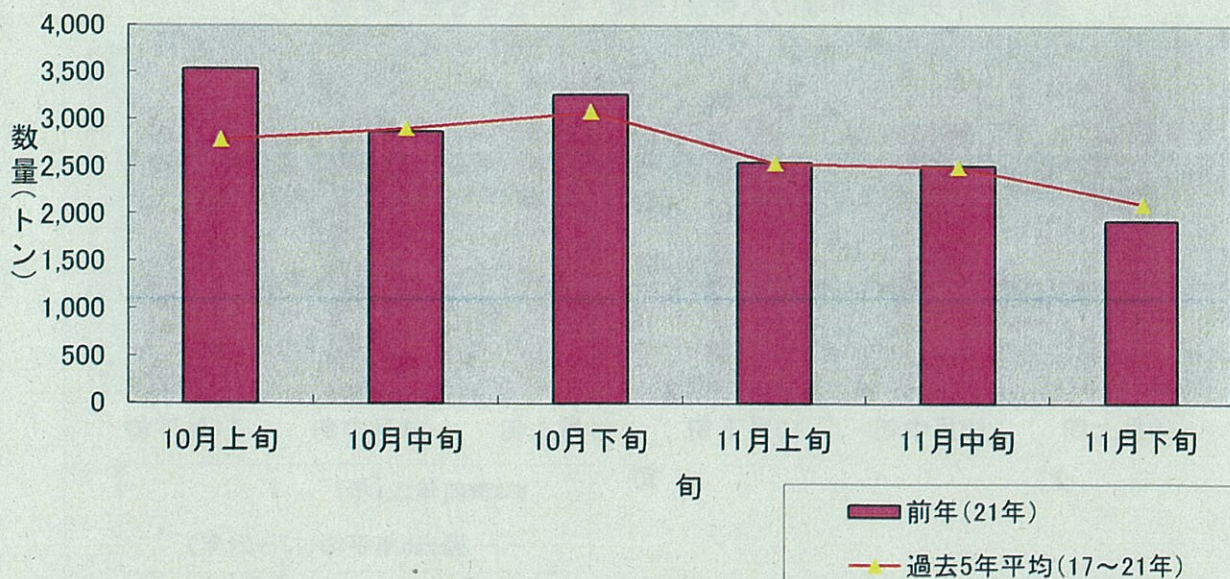
10月下旬の出荷見通し

- ・茨城：平年並の出荷量となつて10/25の週あたりから出荷最盛期となる見込み。
- ・長野：準高冷地から最終の出荷となる。前年との比較すると、切り上がり早く、出荷量は下回る見込み。
- ・兵庫：定植の遅れから平年よりは少ない出荷となり、気温が落ち着けば20日頃から徐々に数量増えてくる見込み(前年10月下旬は、強風の影響で少なかった)。

11月の出荷見通し

- ・茨城：10月下旬～11月上旬・中旬にかけて出荷ピーク。定植遅れた分、例年より遅くまで定植されており、今後の天候にもよるが11月下旬・12月上旬の出荷量は平年より多くなることも想定される。
- ・長野：終了の見込み。
- ・兵庫：本格的な出荷となる見込み。

東京都中央卸売市場の入荷量(系統、商系を含む全入荷量)



主産県における野菜の出荷状況と見通し

品目 きゅうり

○本年見通し数量の前年対比(主産県)

出荷団体	10月上旬	10月中旬	10月下旬	11月上旬	11月中旬	11月下旬
全農群馬県本部	98%	102%	96%	98%	83%	71%
全農埼玉県本部	95%	98%	102%	107%	91%	90%
全農宮崎県本部	98%	160%	110%	135%	123%	157%
3県の合計	97%	106%	100%	109%	99%	113%

○生育・出荷について

現状の生育・出荷状況

- ・群馬 : 主力の抑制物は、高温による品質低下により数量が伸び悩んだ。
現在の出荷量は、日量45,000～35,000ケース。
- ・埼玉 : 猛暑の影響で果形が乱れ下位等級の発生が多かったが回復しつつある。出荷量は平年並み。
今後加温タイプ(晩抑制作型)中心の出荷となる
- ・宮崎 : 冷え込みと周期的な天候不順により出荷量は日量40トン。ハウス抑制はやや遅れているが生育は概ね順調で、10月下旬には出揃ってくる見込み。

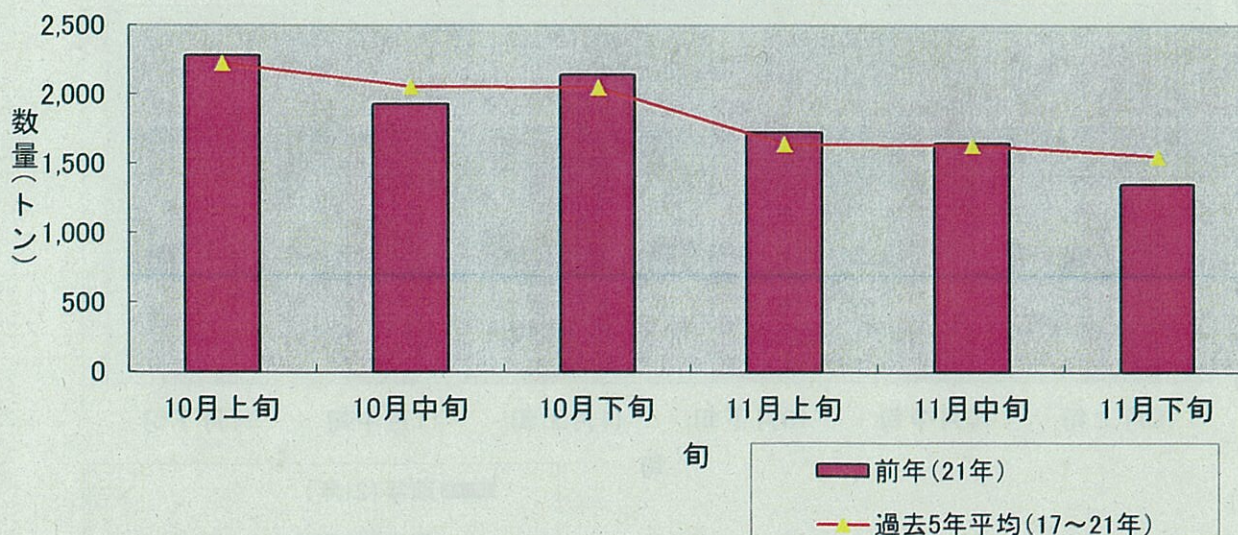
10月下旬の出荷見通し

- ・群馬 : 作型の早い地域では終盤期となる。初期成育時の高温の影響が残り、樹勢が弱い傾向にある。
- ・埼玉 : 越冬作型の生育は(現在のところ)順調であることから平年並みの出荷量を見込む。
- ・宮崎 : ハウス抑制の出荷が出揃い、増加が見込まれるが、露地抑制は出荷の後半に入ってくる。
全体数量は徐々に増加しながら推移する見込み。

11月の出荷見通し

- ・群馬 : 主力の抑制物は、全体では11月下旬に向けて数量は減少する見込み。
加温物が継続し、越冬物の出荷が一部始まる。
- ・埼玉 : 天候次第であるが、平年並みかやや増を見込む。
- ・宮崎 : 促成タイプの出荷が始まる。ハウス抑制タイプは11月にピーク迎える見込みで、中旬以降は潤沢な出荷が見込まれる。

東京都中央卸売市場の入荷量(系統、商系を含む全入荷量)



主産県における野菜の出荷状況と見通し

品目	トマト
----	-----

○本年見通し数量の前年対比(主産県)

出荷団体	10月上旬	10月中旬	10月下旬	11月上旬	11月中旬	11月下旬
ホクレン	70%	101%	76%	84%	87%	92%
全農茨城県本部	62%	64%	74%	56%	62%	62%
熊本県経済連	86%	139%	88%	102%	85%	109%
3県の合計	71%	96%	79%	87%	81%	102%

※ホクレン:ミニトマトを含む

○生育・出荷について

現状の生育・出荷状況

- ・ホクレン: 猛暑の影響により着果不良と小玉傾向となっており、収量は減少している。
- ・茨城: 現在、気温が下がり着果や果形は回復してきている産地もあるが、今後は作型後半となり、数量回復は期待できない見込み。
- ・熊本: 夏秋物後半・抑制物前半で夏場の高温で着花が悪く、数量減となっている。
冬春物が始まる10/20頃から11月にかけて出荷増加の見込み。

10月下旬の出荷見通し

- ・ホクレン: 着果不良から残り玉が少ないため、出荷量は例年以上に減少すると思われる。
- ・茨城: 昨年の出荷量が多かったこともあり、前年比7割程度の出荷となる見込み。
- ・熊本: 日量8,000～10,000ケースの出荷見込み。

11月の出荷見通し

- ・ホクレン: 10月下旬同様に出荷量は平年に比べ減少する見込み。
- ・茨城: 抑制の作型は終盤となり、出荷量は減少していく。
昨年の出荷量が多かったこともあり、前年比6割程度の出荷となる見込み。
- ・熊本: 日量10,000～15,000ケースの出荷見込み。

東京都中央卸売市場の入荷量(系統、商系を含む全入荷量)

